

台雲寺新聞

第3号
発行所
萬歳山台雲寺
寺務所内編集部
発行責任者 中本光勇

孫の名に 変えて絵本を 読んでやる
褒め言葉 聞こえぬふりして 聞き返す
名作川柳より

新春号 大本山總持寺参拝特集



新年明けましておめでとうござい
ます。檀信徒の皆様には恙無く御健
勝にてお迎えの事とお慶び申し上げ
ます。

さて、昨年十月に総代様や檀家の
皆様と一緒に大本山總持寺に参拝致
しました。

千畳敷の大祖堂で乙川監院老師を導
師にお願ひし、百人余の雲水(修行
僧)による先祖供養は圧巻でした。莊
嚴の中にも心が和む素晴らしい法要
でした。

私個人といたしましては、四十年
前の修行時代を思い出し、懐かしい
思い出と同時に、又頑張ろうという
気持ちになりました。

やはり本山は厳しいけれど、心が
暖かくて優しい気持ちにさせてくれ
る所でした。

本堂に有り難く穏やかな気持ちで
お参り出来た事が、なによりのお土
産となりました。参加された檀家の
皆様も同じ気持ちだったと思います。
皆様も機会があれば是非ご本山
にお参りされることをお勧めします。
今年が皆様にとって、穏やかな年
でありますよう祈念し、年頭の挨拶
とします。

合掌

ごあいさつ
住職 中本 光勇

台雲寺 平成30年行持
1月14日 開山忌法要
旧暦24日 地藏縁日法要
3月21日 春彼岸法要
4月15日 花まつり
5月23日 内藤家墓前供養
6月3日 大般若会
7月29日 施食会
8月18日 仏教会流れ灌頂
9月23日 秋彼岸法要

新春祈禱札

元旦の早朝、当山の護持興隆、檀信徒の皆様の健康長寿・家内安全・心願成就・合格祈願・商売繁盛・交通安全などを御祈禱し、法要を行いました。また、初日の出をお迎えしながら、お札を祈禱致しました。



お求めは、寺務所にて。
白札 500円
金札 1,000円

☆昨年10月16日～18日まで 大本山總持寺に参拝へ行きました！



大本山總持寺 大祖堂

大本山總持寺参拝を願ひて

婦人会会長 長友真美子

去る平成二十九年十月十六日より、大本山總持寺にお参りしました。横濱の鶴美ヶ丘にある總持寺は「大都市の縁のオアシス」と言われて、子供達からお年寄りまでの憩いの場となっているそうです。

さて、羽田に着いたら生憎の雨でしたが、一同大本山の拝観と御先祖供養に心弾ませていました。方丈様を始め各家族が大祖堂にて一人ずつ名前を呼ばれ、並みいるお坊様方の前で先祖供養をして戴きました。その後、広い寺院内をくまなく案内してくださり、お昼には精進料理を頂くしました。翌日は雨の中、久能山東照宮にお詣りし箱根を一巡りする頃には、雨も上がり待望の富士山もチラリと姿を見せて一同歓声を上げていました。翌三日目は、朝から晴天で鎌倉へ長谷の大仏様と鶴岡八幡宮とお参りし横濱の街を見学しながら帰途につきました。

十数人のコンパクトな旅でしたが、あの日の鎌倉の空のような爽やかな心に残る思い出となりました。



二日目 久能山東照宮



ご本山での昼食



大本山總持寺 大祖堂

お寺からご案内

☆九州北部豪雨災害義援金☆
二万八千六百二円
集まりました。宮崎県宗務所へお届けします。ご協力ありがとうございました。

三月二十二日(日) 地藏縁日法要
三月三十一日(水) 春彼岸会
四月十五日(日) 花祭り(予定)
六月三日(日) 大般若法要

※当山の駐車場には限りがあるため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

春・秋彼岸会のお話し

お彼岸は春と秋との2回あり、春分・秋分の日を中日(ちゅうにち)とし、前後3日を合わせた7日間をいいます。古くは聖徳太子の頃から始まったともいわれ、古い記録では『日本後紀』の「大同元年(806)3月辛巳の条」に、崇道天皇(早良親王)の供養の為に諸国の国分寺の僧を集め、法要をしたことが記され、彼岸のはじまりとする説もあります。

農耕文化の日本では古来より、昼夜の時間が同じで、真東から太陽がのぼるこの時節に自然の恵みに対する感謝をささげる風習があり、これらと仏教の教えが結びついたと考えられています。

彼岸とは煩惱と迷いの世界である「此岸」から悟りの世界「彼岸」へ到達するために、「六波羅蜜」の修行を行なう期間でもあります。

お墓参りをし、お花や線香を供え、真心の合掌を捧げるといふ修行が大切ですが、お参りは一度行ったら、後はほったらかしにするのではなく、彼岸参りに限らず何度でも繰り返し行なうことが肝心なのです。

「ぼたもちとおはぎの違いは？」
春彼岸にお供えするのは「ぼたもち」。秋は「おはぎ」。どちらも同じものですが、それぞれ季節の花「牡丹」と「萩」にちなむものです。

実は、春彼岸の牡丹餅は、冬を越して皮が固くなった小豆を使うため、皮を取り除いた「こしあん」、秋彼岸の御萩は収穫したての柔らかい小豆を使用するので、皮まで含めた「つぶあん」が主流だったのだとか。

今では、保存技術や品種改良の流れから、この区別はしだいに薄れてきているようです。



宗派によって作法は違いますが、曹洞宗のご焼香は、二回です。まず、香炉の前で合掌礼拝し、一度目は、香をつまんだ手に、もう一方の手を添えて相手を敬い、念じた後に焚きます。二度目は、念じずにそのまま焚きます。

仏様は、「香身」といって香りをお食べになります。「どうぞお召し上がりください」という気持ちで念じて焚いてください。

二度目の香は、「従香」といって、香を絶やさないために添えるためのものなので、念じずにそのまま焚くものです。二回の焼香が終わりましたら、合掌礼拝をして席につきませう。

作法は様々ですが、心を込めたお香をお供えしましょう。

★「焼香の豆知識」★

